

精華町の環境

令和 5 年度(2023 年度)の報告

令和 6 年 1 2 月

精華町 健康福祉環境部 環境推進課

■はじめに

第2次精華町環境基本計画は、「精華町環境基本条例」に基づき、令和3年（2021年）に策定しました。

本報告書は、条例に掲げる基本理念の実現を目指し、住民、事業者、行政などすべての参画と協働のもと、環境に関する施策を総合的かつ計画的に推進するためにまとめたものです。

Ⅰ．目標像の進捗状況・・・・・・・・・・・・・・・・ P.2

第2次精華町環境基本計画の環境目標の進捗状況を紹介するページです。令和5年度(2023年度)の内容に基づいて各目標像の進捗状況の紹介を行っています。

目標像1【協働・環境学習】

「人・社会・歴史文化」が未来を育むまち～環境“幸”都～・・・・・・・・ P.3

目標像2【生物多様性・安全】

「里山・田畑・生活環境」を継承するまち～環境“恒”都～・・・・・・・・ P.5

目標像3【資源・気候変動】

「資源・エネルギー」が巡るまち～環境“康”都～・・・・・・・・ P.7

目標像4【経済循環・創出】

「環境・経済の循環」が興るまち～環境“興”都～・・・・・・・・ P.9

コラム：精華町の温室効果ガス排出量・・・・・・・・ P.11

2．リーディングプロジェクトの取り組み状況・・・・ P.13

環境像・目標像の実現に向け、当面重点的に取り組む具体的行動として位置づけられた5つのリーディングプロジェクトとして位置づけています。令和5年度(2023年度)の内容に基づいて各リーディングプロジェクトの取り組み状況の紹介を行っています。

リーディングプロジェクト①・・・・・・・・ P.14

次世代を育むプロジェクト

リーディングプロジェクト②・・・・・・・・ P.14

精華3C（チャレンジ・クリーン・クロス）プロジェクト

リーディングプロジェクト③・・・・・・・・ P.15

「今日あなたは（環境に良いことについて）何をしましたか」プロジェクト

リーディングプロジェクト④・・・・・・・・ P.16

精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト

リーディングプロジェクト⑤・・・・・・・・ P.16

環境への一歩とつながりを育むプロジェクト

■計画の進行管理について

精華町では、「精華町環境基本計画」を推進するため、PDCAサイクル（Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(実施)）によって毎年、活動を評価し、進行管理を行います。この進行管理の中で、「精華町の環境」（年次報告書）を公表し、精華町環境推進委員会による評価と住民の皆さんからのご意見やご提案をもとに施策や事業を見直し、改善を図りながら、取り組みを進めていきます。

1. 目標像の進捗状況

精華町環境基本計画は、行政の施策を基本としながら、住民・事業者・住民団体など多様な主体の連携・協力によって相乗効果をもたらし、総合的に推進する体制で進めています。また、取り組みの相乗的な効果を評価し共有化するため、環境像と4つの目標像を定め取り組み内容を整理し、環境像・目標像の実現に向けて大きな効果が期待される、当面重点的に取り組む具体的行動を5つのリーディングプロジェクトとして位置づけています。

この「精華町の環境」では、4つの目標像について、令和5年度(2023年度)の取り組み結果に基づき、その取り組み状況などをまとめています。また、目標像に関連する定量目標、主な施策・事業の進捗状況を紹介し、環境推進委員会の評価を報告し、それに対する町の考え方を記載しています。

●目標像とリーディングプロジェクト(当面重点的に取り組む具体的行動)の関係

		【環境像】 「環境の恵み」「人」「知恵と技術」が交わるまち～環境交都・精華町～			
		【目標像】			
		①協働・環境学習 「人・社会・歴史文化」が 未来を育むまち ～環境“幸”都～	②生物多様性・安全 「里山・田畑・生活環境」を 継承するまち ～環境“恒”都～	③資源・気候変動 「資源・エネルギー」が 巡るまち ～環境“康”都～	④経済循環・創出 「環境・経済の循環」が 興るまち ～環境“興”都～
リーディングプロジェクト	次世代を育むプロジェクト	★	○	○	★
	精華3C（チャレンジ・クリーン・クロス）プロジェクト	○	○	★	○
	「今日あなたは（環境に良いことについて）何をしましたか」プロジェクト	★	○	○	★
	精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト	○	★	○	○
	環境への一歩とつながりを育むプロジェクト	★	○	○	○

★：特に深いかわり

目標像Ⅰ		【協働・環境学習】 「人・社会・歴史文化」が未来を育むまち～環境“幸”都～
定量目標		
環境学習に資する町主催・後援の取り組み件数	2031年度の目標値	10(件/年)
	実績値(2023年度)	7(件/年)
	動向	目標値の70%を達成した。(前年度70%)
取組実績 (2023年度)	○町内希望小学校の4～6年生に「環境日記」で環境学習を実施。 ○「環境のつどい」で、環境日記に取組んだ優れた作品の小学生を表彰。併せて講演会、環境工作教室を実施。 ○環境省補助金を活用して作成した、省エネ家電への切替」を促すナッジ手法を用いたリーフレットを配布。 ○「STEP 映画会」で、「水」をテーマに環境啓発映画を上映。 ○「STEP 講演会」で、環境に関する講演会を実施。 ○木津川市と共催で、商業施設において coolchoice の啓発を実施。 ○「打ち水イベント」で、環境に関する体験学習を実施。	
(要因分析)	前年度までは、新型コロナウイルス感染症拡大等により、イベント等の中止・規模縮小が影響し、取り組み件数が減少していたが、本年度より、環境日記、STEP 映画会、打ち水イベント、せいか祭りなどの定例の7事業を実施したところであり、さらなる環境学習の機会を拡大・充実させるため、2031年度の目標値を10件と設定している。	
主な施策・事業の進捗状況		
事業名	進捗状況	担当課
(1)地域の多様な関わりの増進		
環境衛生一般 【精華町環境推進委員会 及び精華環境プラットフォーム】	環境基本計画の推進に向け、環境推進委員会を4回開催。 環境プラットフォームは、住民向け及び事業者向けの計2回開催。	環境推進課
(2)環境学習の推進		
環境日記	町内の小学生を対象として、身近な環境に関心を持ち、地球に優しい活動に取り組んでもらうことを目的とした環境学習の一環として実施した。(応募総数77件)	環境推進課
環境イベント 【環境のつどい】	環境日記に取り組む優秀な日記を書いた小学生に対して表彰式を11月23日に実施。あわせて地球温暖化対策の講話、さらに環境工作教室を実施した。	環境推進課
クールチョイス啓発	地球温暖化対策を家族と一緒に考えてもらうきっかけとなるよう、小学生向けのクールチョイス冊子をイベントで配布した。	環境推進課
その他の実施事業		
環境対策推進【STEP 映画会】【STEP 講演会】／せいか祭り		

評価	
環境推進委員会の評価	コロナ禍によるイベント回数の減少が無くなり、啓発活動が活性化した。定例イベントの開催ができたことは評価する。継続的な啓発活動を期待する。
今後に向けて	環境啓発活動については、目標値10件の達成に向けて、令和5年度に計画策定した精華町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を基に、充実を図っていく必要がある。 環境や地域の歴史・文化を小・中学生の探求学習等と連携しながら継続的な学習機会の提供が必要である。

●取り組み内容

●クールチョイスの推進

地球温暖化対策につながる賢い選択をしようという国民運動（クールチョイス）を推進するため、小学生向けクールチョイス啓発冊子を作成・配布した。また、横断幕、懸垂幕、ポスター、のぼり旗等の設置により啓発を行っている。



小学生向けクールチョイス啓発冊子



近鉄新祝園駅前



くるりんバス内

目標像2		【生物多様性・安全】 「里山・田畑・生活環境」を継承するまち～環境“恒”都～
定量目標		
給食での地場産物の 年間利用回数の割合	2031年度の目標値	・保育所給食 15.0%以上 ・小学校給食 20.0%以上 ・中学校給食 15.0%以上
	実績値(2023年度)	・保育所給食 6 % ・小学校給食 10 % ・中学校給食 6 % ※数量で算出している。
	動向	昨年度比で減少した。
子どもたちが里山や 田畑に触れた件数	2031年度の目標値	・全生徒が触れること
	実績値(2023年度)	・学校農業体験12回 ・森林環境教室 4 回
	動向	実施回数は横ばいであった。
取組実績 (2023年度)	○学校給食への地場産野菜の食材提供について、学校給食地場産野菜調達業務では、中学校給食への提供が始まった。 ○せいか里山の会では、毎月保全活動を行い、自然体験などのイベントを開催し、子どもも10名が参加された。 ○学校農業体験として、町立の小学校5校、中学校3校及び支援学校1校の9校すべてで計画し、実施した。 ○森林環境教室として、町立小学校5校の内、4校で計10クラス・4回実施。 ○洛いも植付・収穫体験を、すべての町立保育所(3保育所)で実施。	
(要因分析)	○学校給食への地場産野菜の食材提供量は、令和5年度には学校給食地場産野菜調達業務で天候不良の影響等により、じゃがいも等の根菜の提供量が減ったため減少した。 ○取組内容は、例年実施している取り組みであり、新型コロナウイルス感染症による影響は低減したが、雨天のため中止になった取り組みもあり実施回数は横ばいであった。	
主な施策・事業の進捗状況		
事業名	進捗状況	担当課
(1) 里地里山の保全と継承		
里山保全モデル事業	里山が持つ豊かな自然を保全、再生するための下草刈りなどの定例保全活動を計8回(参加人数103人)[令和4年度:計9回(参加人数126人)]実施した。	農政課
(2) 安全・安心な環境の確保		
環境汚染対策事業	河川水質調査、学研地区進出企業への環境保全計画の審査や環境保全協定による立入調査を実施した。	環境推進課
(3) 環境美化活動の推進		
道路・公園等維持管理事業	住民と行政の協働による「クリーンパートナー」により、道路清掃や除草、植栽帯の維持管理など美化作業を通して、環境美化に対する意識の高揚、環境との共生、安全で安心なまちづくりを推進した。町内で34団体(1,678人)が活動を行っている。	建設課

(4) 美しい景観の充実		
あき地等適正管理指導	あき地の所有者に対し、除草等の適正管理を促すための指導を行い、住環境の保全に努めました。	環境推進課
その他の実施事業		
健康づくり推進事業【食育の啓発推進】／農産物育成・販売推進事業／地域担い手育成総合支援事業／精華町まちをきれいにする条例の周知・啓発／きれいなまちづくり運動推進事業／都市公園維持管理事業／道路維持管理事業／農業委員及び農地利用最適化推進委員の取り組み		
評価		
環境推進委員会の評価	農業の継承について、高齢化が課題となっており、農業従事者が現状と今後の展望を知れるよう情報提供が必要である。また、行政として地域の取組を取り上げて後押しするのが見えて来ない。	
今後に向けて	移住者や都市住民の力を借りることに併わせて、従来の農業の価値を見出していく必要がある。また、農業分野や地元の人だけでなく、外部の人とどう連携するのも課題である。 水環境は住民生活に深く関係する問題であるため、正確な情報を細やかに広報していくことが求められる。	

●取り組み内容

●学校農業体験

田植えや稲刈りの農業体験を実施した。



川西小学校（田植え）

●せいか里山の会

里山の豊かな自然を保全し再生するため、下草刈りなどを実施した。



里山の保全活動

●河川の水質検査

毎年２回、町内の１２河川、１８地点の水質を調査し、きれいな水であることを確認した。



目標像3		【資源・気候変動】 「資源・エネルギー」が巡るまち～環境“康”都～
定量目標		
町民1人が1日 に出すごみの量	2031年度の目標値 ※一般廃棄物処理計画 の目標値と連動します。	平成 27(2015)年度と比べて令和 8(2026) 年度に 1 人 1 日あたり、ごみ総排出量で約 2.6％削減(20gの減量)
	実績値(2023年度)	0.62％減少(4.8g 減) ※平成 27 年度 776.8g/人・日
	動向	平成 27 年度比では、平成 29 年度までは減 少でしたが、平成 30 年度に増加に転じ、令和 2 年度以降は再び減少傾向である。
資源・気候変動に 関する情報発信 (うち、再生可能エネルギ ー等に関する情報発信)	2031年度の目標値	・20(件/年) (うち、5(件/年))
	実績値(2023年度)	・67(件/年) (うち、15(件/年))
	動向	目標値を上回った。
取組実績 (2023 年度) (うち、再生可能エネルギ ー等に関する情報発信)	○ごみの量について:家庭ごみの減量を目的に「食品ロス削減キャンペ ーン」として、町内公共施設や小売店などで啓発を実施。 ○情報発信件数について:広報誌への掲載は 45 件(うち、6 件)。ホーム ページへの掲載は 22 件(うち、9 件)。	
(要因分析)	○ごみの量について:「環境の森センター・きづがわ」が本格稼働し、より 正確にごみの排出量が把握可能となった。また、小型のプラスチックご み等の排出方法を変更したことに伴い、プラスチックは燃やすごみへの などの勘違いが増え、燃やすごみの排出量が増加した。 ○新型コロナウイルス感染症拡大等により、家庭での食事機会が増える 等、事業系から家庭系へ排出区分が変わっている。 ○情報発信件数については、資源関係の情報発信件数は例年多いが、 エネルギー関係は内容の充実が必要である。	
主な施策・事業の進捗状況 ※[]内は前年度実績		
事業名	進捗状況	担当課
(1) 地球温暖化防止の推進と気候変動影響への適応		
自立型再生可能エネルギー 導入促進事業	住宅におけるエネルギー供給の自立化の促進のため、住 宅用太陽光発電設備及び住宅用蓄電設備の同時設置へ の補助を実施。京都府との連携による普及啓発に努めた。	環境推進課
庁舎維持管理事業	KES 環境マネジメントシステムによる環境改善活動におい て、庁舎全体の二酸化炭素排出量は763,892kg〔令和4 年度:791,063kg〕となり、対前年度比3.43％の減少とな った。	総務課
(2) 循環型社会の構築		
ごみ収集処理	減量化に向け「食品ロス」の削減、生ごみの水切り、「その他 のリサイクルできる紙」の分別の 3 点を重点的に推進した。 また、廃棄物リサイクルに向け、9種類の分別収集を実施。	環境推進課

事業名	進捗状況	担当課
廃棄物減量・リサイクル推進事業	「ごみの収集日程表」及び「ごみの分別辞典」を作成し、各戸配布したほか、ごみ分別アプリを導入し、約 7 千件のダウンロードがあった。また、快適な生活環境を確保するため、町内各種団体の協力を得てクリーン・リサイクル運動を展開した。41 自治会、10,468 名参加[令和4年度 42 自治会、11,138 名参加]	環境推進課
(3) 環境に配慮した交通手段の充実		
コミュニティバス運行事業【公共交通の利用促進】	高齢者や交通弱者の足として、公益性の高い施設を結び、地域交流の促進、福祉増進を目的に、コミュニティバス運行事業を実施した。また、より利用いただきやすい、運行形態等について、学識経験者や地域住民とともに検討を行った結果、一部地域でのデマンド交通への切替を行うこととなった。	都市整備課
その他の実施事業		
公用車管理事業【公用車に低公害車を導入】／環境汚染対策事業【みどりのカーテン】		
評価		
環境推進委員会の評価	他自治体や町内に立地する事業所の先進的な方法論や取り組みの事例を町民の方に共有することが有効であると思われる。地域経済循環にも繋がるため、継続的な情報収集が求められる。	
今後に向けて	一般家庭からのごみと事業からのごみについて、発生抑制に向けた一層の啓発が求められる。また、地域経済に対する町としての方針や施策についての具体的な広報を期待する。 行政部署間や地域との連携による一層の啓発活動が求められる。	

● 取り組み内容

● 食品ロス削減キャンペーン

10 月・11 月にのぼり旗や掲示物を町内公共施設、町内小売店等で掲示し啓発した。

また、平成 29 年度から京都府立大学と進めてきた共同研究の調査の中で、「食品ロスの削減」について効果が見られた3つの行動を実践していただいた冷蔵庫内の整理後の写真募集の実施や、環境推進課の窓口を受付場所としたフードドライブや、食品ロス削減アイデア募集を実施した。

☆「食品ロスの削減」に効果が見られた3つの行動☆

- ①「傷みやすい食品を、優先的に使う」
- ②「すぐ使う食品は、冷蔵庫の目線の位置に置く」
- ③「買い物前に、冷蔵庫を確認する」



目標像4		【経済循環・創出】 「環境・経済の循環」が興るまち～環境“興”都～
定量目標		
HPや広報等における 企業の環境に関する取組情報 の発信件数	2031年度の目標値	・5(件/年)
	実績値(2023年度)	・6件(件/年)
	動向	目標値を上回った。
取組実績 (2023年度)	令和4年度からホームページや広報誌等に企業の環境に関する自主的な取組事例を掲載した。	
(要因分析)	－	
主な施策・事業の進捗状況		
事業名	進捗状況	担当課
(1)関係機関との連携及び事業者の取り組み促進		
学研都市建設推進 ・活性化事業	京都・けいはんなの産業振興とスマートシティの情報発信により、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に貢献するため、京都スマートシティエキスポを開催している。環境・デジタル・まちづくり・ヘルス・フードテックを中心にオープンイノベーションの推進を図り、『超快適』スマート社会」の創出を目指している。本町では、ICTを基盤とした産業に関する企業や研究者、住民などが多数集い、交流を図るこの京都スマートシティエキスポの運営に参画し、関係諸団体と連携して事業の進展を図った。	企画調整課
企業誘致促進事業	○職住近接のまちづくりや地域経済の活性化を図り、また本町のまちづくりの基本理念の一つである将来にわたり高度な都市運営を支える自立のまちづくりを推進するため、助成金を支出した。 ○企業立地促進条例を施行し、京都府などと連携を図りながら企業誘致に努めた結果、企業立地の促進が図れた。	商工推進室
特産品開発推進支援事業	精華町地域資源総合管理センター華工房を拠点とした精華町特産品開発連絡協議会の活動について、町内のJA直売所、大型商業施設や近隣市町村の旬の駅に販売コーナーを設けて販路確保や販売促進に努め、地域特産品の育成を支援した。	農政課
評価		
環境推進委員会の評価	脱炭素社会に向けて、社会的な取組が加速している状況にあることから、精華町として住民団体や企業、他自治体などと連携した取組みの推進が期待される。また、企業の誘致については、町としての環境基準等を検討する必要があると考える。	
今後に向けて	地産地消における常設地産物販売店舗を増やすとともに、地産地消の啓発と広報をしていく必要がある。 誘致企業については、環境問題に配慮を求め、進めていく必要がある。	

●取り組み内容

●企業等の環境に関する取組事例を紹介

令和4年度から町内企業等の「環境に関する自主的な取組事例」を募り、町のホームページで紹介している。

町内で活躍されている他の企業の取組事例を参考に、環境に関する自主的な取り組みが一層広がり、環境意識のさらなる向上を目指している。

<https://www.town.seika.kyoto.jp/kakuka/kankyo/1/1/1/20227.html>



●精華町の特産品など

精華町の農産物などを使用した「お酢」「お菓子」「各種ジャム」などを開発・販売している。



全国各地のイベントで精華町のPRと各種特産品を販売した。

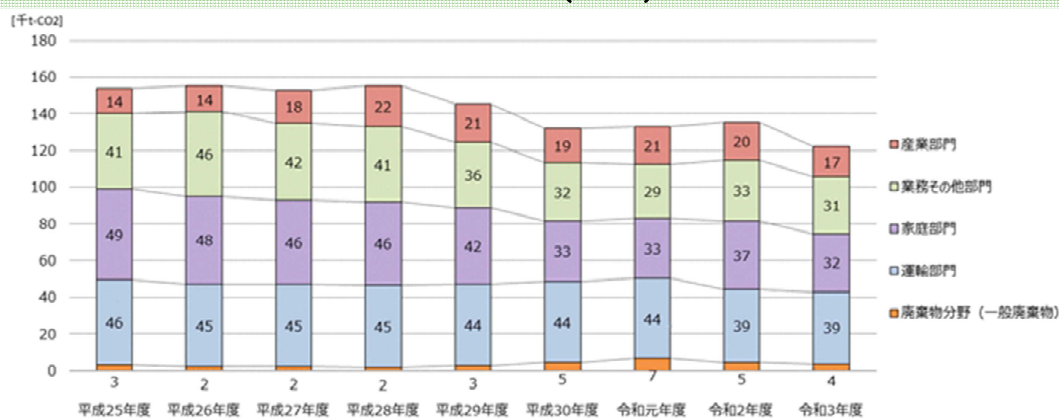


●コラム：精華町の温室効果ガス(CO2)排出量

○精華町の令和3(2021)年度の温室効果ガス(CO2)排出量は、122 千tCO2 です。

○2017(平成29)年度以降は減少傾向となっています。

部門・分野別の温室効果ガス(CO2)排出量の経年変化

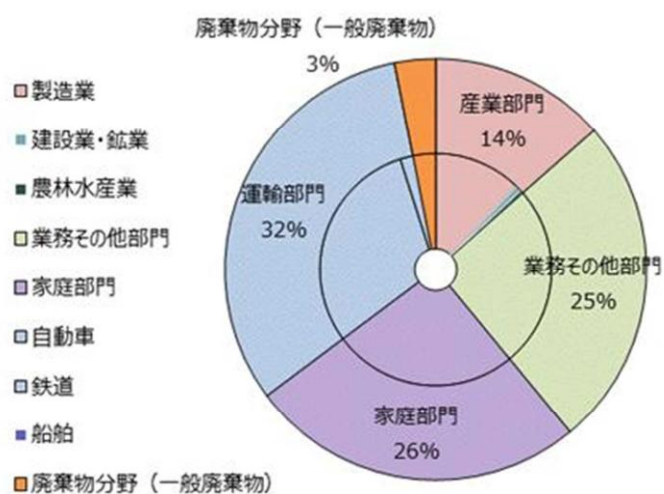


産業部門	製造業、農林水産業、鉱業、建設業におけるエネルギー消費に伴う排出です。
業務その他部門	事務所・ビル、商業・サービス施設のほか、他のいずれの部門にも帰属しないエネルギー消費に伴う排出です。
家庭部門	家庭におけるエネルギー消費に伴う排出です。自家用自動車からの排出は運輸部門での計上です。
運輸部門	自動車(旅客・貨物)、船舶、航空機、鉄道におけるエネルギー消費に伴う排出です。
廃棄物分野	廃棄物の燃焼処分に伴い発生する排出(焼却処分)、廃棄物の埋立処分に伴い発生する排出(埋立処分)、排水処理に伴い発生する排出(排水処理)、廃棄物の燃焼、製品の製造の用途への使用及び廃棄物燃料の使用に伴い発生する排出(原燃料使用等)です。

○部門・分野別の構成比は、運輸部門からの排出が最も多く、全体の32%を占めます。その運輸部門のほとんどが自動車(30%)からの排出であり、その自動車のうち、旅客が20%、貨物が10%を占めます。

○次いで、家庭部門(26%)、業務その他部門(25%)、産業部門(14%)と続きます。

それぞれの家庭での取組が精華町全体の排出量にも影響します。



排出量の部門・分野別構成比
(令和3年度(2021年度))

●コラム：地球温暖化に関する最新トレンド（2030 年までに転換が必要なこと）

○現状と傾向

- ・IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第6次評価報告書では、人間の活動が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がないと断定しました。
- ・そんな中、世界では、地球温暖化の原因である温室効果ガスを削減し、世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて **1.5℃未満** に抑えることを目指しています。
- ・しかし、**2024 年の世界の平均気温は、産業革命前に比べて 1.5 度以上高くなる**との見通しを欧州の気象機関が発表しており、待ったなしの状況となっています。
- ・“**この 10 年間に行う選択や実施する対策は、現在から数千年先まで影響を持つ**”と IPCC の報告書では警告されており、今が未来への分かれ目となっています。

○私たちにできること

分野	内容
エネルギー供給	太陽光等の再生エネルギーの活用しているエネルギー事業者から電気を購入する など
土地・水・食料	地産地消、食品ロスの削減、持続可能で健康的な食生活、農地・森林の保全、里山整備などへの参加 など
居住・インフラ・健康	断熱・遮熱対策、新築時にエネルギー効率も考え購入、EV・PHV の乗り換え、効率的な照明・家電・機器、公共交通機関・自転車の利用、自家発電（太陽光発電等） など
社会・生活・経済	脱プラスチック、リサイクルの強化、環境へ負荷の少ない商品の購入や事業者の応援 など

○補助金を活用してみませんか

- ・京都府では、府内の家庭部門の温室効果ガス排出量の削減を図るため、個人が断熱・気密性の高い省エネ住宅を新築又は購入する費用に対し、その経費の一部を補助しています。
- ・詳しくは、京都府地球温暖化防止活動推進センターのホームページ内の特設サイト（www.kcfca.or.jp/project/2024zeh/）を参照してください。



← 京都府 ZEH 補助金
令和6年度京都府住宅脱炭素化促進事業 補助金
サイト（京都府地球温暖化防止活動推進センターホームページ内）

京都府 ZEH 補助金
〔京都府住宅脱炭素化促進事業補助金〕
令和6年 4月15日（月）から受付開始！

**省エネ住宅で
健康で快適な生活を
始めませんか**

環境にやさしい
住宅の購入を
補助します！

さらに

- ZEH
- Nearly ZEH※
- ZEH Oriented

20 補助金額
万円

- 京都府「ひろがる京の本質 備事業（住宅タイプ）」の補助金の交付を受ける住宅
- 京都府エネコンシェルジュが設計又は施工*を行う住宅

+10 補助金額
万円

令和7年 2月24日（月）まで受付中！
申請総額が予算上限に達した段階で受付を終了します

概要・手続き等は裏面をご覧ください webはこちら

京都府住宅脱炭素化促進事業補助金
チラシ（出典：京都府）

2. 2. リーディングプロジェクトの取り組み状況

精華町の環境像・目標像の実現に向けて大きな効果が期待される、総合的かつ横断的な推進が必要な当面重点的に取り組む具体的行動を5つのリーディングプロジェクトとして位置づけ、環境基本計画全体を実現に向けてリードする。

5つのリーディングプロジェクト

① 次世代を育むプロジェクト

これまでの環境学習の取り組みを活かし、伸ばす取り組みを実施する。

また、事業者と環境学習とのつながり創出、地域内の事業者同士が知り合ったり、事業者と地域や地域団体が出会い、新たな活動の創出を生み出す場づくりを行う。

② 精華3C（チャレンジ・クリーン・クロス）プロジェクト

地域のすべての人が、地域の環境を守り、未来を大きく育むまちを実現するために、まちを美しくする活動を進める。

また、環境に触れるきっかけとして、テーマを決めて取り組むものとする。

③「今日あなたは(環境に良いことについて)何をしましたか」プロジェクト

地域のすべての人が、環境に関わる活動の中で充実した体験・経験を得て、自主的な環境活動を進める。地域の事業者の方をはじめとして、地域の方が、どのような活動をしているのか、見える化する。

④ 精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト

地域の里地里山の保全・活用に関する取り組みの推進及びそれらの魅力・文化を町民へ伝えていくための活動を進める。

⑤ 環境への一歩とつながりを育むプロジェクト

地域のすべての人が、地域の環境を守り育てるまちづくりを実現するために、多様な主体が連携可能な仕組みづくりを行う。

令和5年度（2023年度）の話題

○精華町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

地球温暖化への対応が世界中で喫緊の課題として認識されており、今後ますます重要視されていくことは間違いないため、精華町の地球温暖化対策の目指す姿と方向性を定めるべく、令和6年3月に同計画を策定しました。

2050年のカーボンニュートラルの実現と、その中間目標として2030年に温室効果ガス排出量の46%削減を定めています。

○一般家庭ごみの組成調査

令和5年11月、一般家庭から出される燃えるごみの現状を調べるために組成を調査しました。

未使用食品や資源となる物が約57%含まれており、ごみの削減に繋がるよう継続的な啓発活動を行います。



2. リーディングプロジェクトの取り組み状況

リーディングプロジェクトの広範囲な分野にまたがる取り組みを総合的に推進するためには、従来からの取り組みを踏まえ、社会情勢などを考慮し、その時々での動向を察知して、進めていくことが大切である。そこで、ここでは各プロジェクトに関連した施策等について紹介する。

① 次世代を育むプロジェクト

【トピックス】

● STEP 映画会

精華町環境ネットワーク会議 (STEP) と共催し、STEP 映画会及び竹あかりワークショップを実施。映画会では「水の問題」などをテーマに上映し、6月以降毎月1回上映し、意識啓発を実施した。



● 環境のつどい

優秀な環境日記を書かれた子どもたちへの表彰式と、京都府地球温暖化防止活動推進センターの協力で、地球温暖化対策の講話や環境工作教室(ソーラーバースデーカード)を実施した。

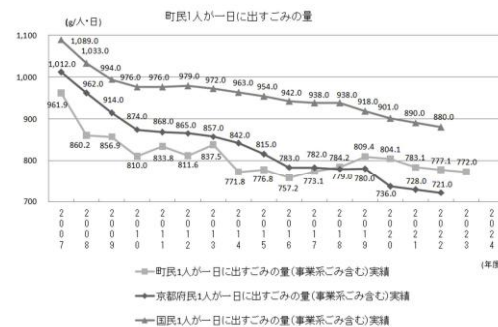


② 精華3C (チャレンジ・クリーン・クロス) プロジェクト

【トピックス】

● クリーン・リサイクル推進

地域の道路・公園などに散乱しているごみを住民自らが清掃する活動。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年度より中止していた開橋周辺での重点活動は各種団体などから約100名が参加した。(令和2年度は約60名が参加)



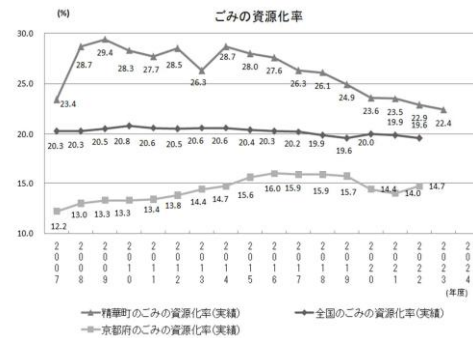
● まちをきれいにする条例

「ポイ捨て」「ふん放置」「落書き」を禁止した精華町まちをきれいにする条例を周知し、その効果を図るため、定点で観測及びごみ拾いを実施した。また、放置された場所に、チョークを使用し、日にち等を記載し、抑止力の向上に努めている。



●循環型社会形成

古紙回収事業、生ごみ減量事業、廃食用油回収事業、使用済み小型家電回収事業を実施。回収後、リサイクル事業者への引き渡しを行い、ごみ減量と環境負荷の低減に努めた。また、廃食用油、使用済み小型家電の拠点回収場所について、自治会や事業者の協力を得ながら増設に努めた。



③「今日あなたは(環境に良いことについて)何をしましたか」プロジェクト

【トピックス】

●精華町商工会青年部との協働による打ち水イベント

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、令和元年度から中止していたが、令和5年度より再開。省エネルギー・節電を呼びかけるため、せいかガーデンシティで打ち水イベントを実施し、子どもたちに打ち水の効果を体験してもらえた。



●環境日記の実施

環境日記の取り組みは、身近な環境に関心を持ち、地球にやさしい活動に取り組んでいただくことを目的とした環境学習の一環として実施しており、6月から8月の間で8週間毎日続けて日記を綴る取り組みである。

令和5年度は、全国コンテストで17名が入賞された。



④ 精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト

【トピックス】

●学校給食への地元産野菜の提供

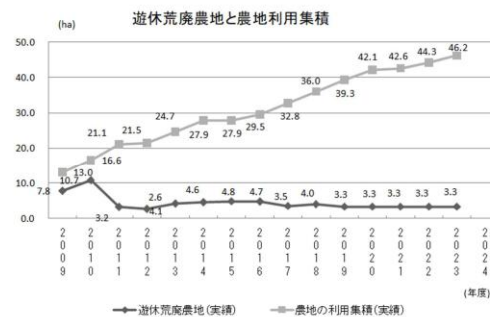
新鮮で安全・安心な農産物を子どもたちに提供できるよう、学校給食への地元産野菜の納入を促進した。令和5年度は学校給食地場産野菜調達業務で10月から中学校への食材の提供が始まったが、天候不良の影響等により、じゃがいも等の根菜の提供量が減ったため、提供量は前年度と比較して減少した。



●遊休地解消

農地の集約化を推進するため、国による農地中間管理事業に取り組み、活用を呼びかけた。農地利用集積などにより、農地の有効活用を図り遊休荒廃農地の増加を抑制することができた。

※農地利用集積とは、利用されていない農地を第三者（個人や法人など）に貸すなどして、活用された農地の面積のこと。



⑤ 環境への一歩とつながりを育むプロジェクト

【トピックス】

●令和5年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止等の対策を行い、環境プラットフォームを開催した。また、イベント等の中止件数が減少し、多様な主体との連携を図ることができた。



精華町の環境
令和5年度(2023年度)の報告

発行:令和6年12月
精華町健康福祉環境部環境推進課

〒619-0285

京都府相楽郡精華町大字南稻八妻小字北尻 70 番地

電話:0774-95-1925

FAX:0774-95-3973

URL: <https://www.town.seika.kyoto.jp>